

明るく 仲よく たくましく ～「心のふるさと」となる あ・な・た を大切にする学校～  
日仏文化学院パリ日本人学校 平成27年度 学校だより 第13号

## *L'arc-en-ciel entre la France et le Japon*



平成28年3月1日 (火) 発行 [文責：河部]

### “パリ日コンサート”

2月2日(火)～9日(火)の6日間、恒例の“パリ日コンサート”が開かれました。これまでもそうでしたが、私は“パリ日コンサート”が毎回とても楽しみでした。独唱、合奏、バレエ、ダンス、そして落語まで、本当にバラエティーに富んだ内容で、しかもとてもレベルの高いものばかりです。中でも私が最も感心するのは、たった一人での発表です。グループでの発表の場合は、仲間と一緒に発表するという安心感があったり、もしかしたら友達に誘われて何となく申し込んだということもあったりするかもしれませんが、一人の場合は、とにかく「自分一人でみんなの前で発表するんだ!」という意思がなければ出場まで至りません。発表を前にして、さらには発表中も、「大丈夫かなあ」「失敗しないかなあ」といった不安もそれこそ人一倍感じたことと思います。それでも積極的に出場を申し込み、立派な発表をすることができた子どもたちに心から拍手を送りたいと思います。そんな“パリ日コンサート”も、私にとっては今回が最後となりましたが、ぜひこれからもたくさんの児童・生徒が積極的に出場して、発表する側も見る側もお互いが楽しい時間を過ごしてくれるよう願っています。

### 現地校との交流

2月は、多くの学年で現地校との交流活動を行いました。2月18日(木)には、中学部の全学年がセット・マール校との交流を行いました。最初に、「雀踊り」の披露と伝授を行いました。フランス人にとっては慣れないステップや所作だったことと思いますが、本校の生徒の教え方もよかったのか、短時間のうちに一緒に踊ることができるようになりました。続いては、「けん玉」「折り紙」「こま回し」「習字」「福笑い」「日本語」「あやとり」「剣道」の8つのワークショップを設け、それぞれの担当グループごとに、セット・マール校のすべての生徒と交流しました。特に印象に残ったのは「剣道」コーナーでした。本校の生徒が正式な道着を身にまとい対応していたこともありますが、「めん!」と元気よく声を出して打ち込みを行ったり、正座の姿勢から「お願いします」と、お辞儀しながらいねいに挨拶を行ったりする姿に感心させられました。なお、交流後、セット・マール校の担当の先生から、本校の生徒の準備ならびに当日の対応について、心からの感謝の連絡をいただきました。



### 子どもたちの様子

まず感心するのは、業間休みに、グラウンドで走る子どもたちがいることです。先月号で委員会活動の取組としての「マラソン大会」のことをお伝えしましたが、その活動の継続として自主的に取り組む子どもたちがいるということです。保護者の皆様のご意見にも体力づくりの取組を望む声がたくさんありましたが、まさにこのような活動こそが子どもたちの体力の向上につながるものだと思います。



す。グラウンドを走る活動は、決して他の遊びのように楽しいものではないと思います。それだけに、感心させられます。同じく運動面のこととして、毎日のように「校長先生、50mのタイムを計ってください!」と言って、校長室にやってくる子どもがいます。友達のタイムを意識しながら「負けるものか!」という気持ちで取り組んでいるようです。

運動面ではありませんが、休み時間になると決まって図書室にやってきて、時間一杯静かに本を読む子どももいます。保護者の皆様のご意見には、体力面はもちろんのこと、しっかり本を読ませてほしいという声もあります。先月の全校朝礼では、“読書のすすめ”をさせてもらいました。私たち大人も含め、パソコンやスマートフォンを使った情報収集が中心になりつつありますが、実際に本を手に取り、活字に親しみつつ想像を働かせながら進める読書のよさ、大切さについては継続して啓発していく必要があるかと思います。その意味では、本校の図書ボランティアの皆様には、本当に子どもたちのために献身的に活動していただいていることを改めて再認識するとともに、感謝申し上げます。

最後に、あいさつについてです。保護者の皆様のご意見の中に、子どもたちのあいさつが今一つだという内容がありました。確かにそう感じる子どももいますが、反対に感心する子どもがたくさんいることも事実です。中には、校長室の前を通るたびに「いねい」に声をかけてくれる子どもがいますし、すれ違う時に会釈やお辞儀をしながら挨拶をしてくれる子どももたくさんいます。なかには、何度も挨拶をする子の様子を見て、『おはようございます』って、一日に1回言えばいいですよね。」とか、10時頃出会った際に、「今は『おはようございます』『こんにちは』のどっちですか?」と尋ねる子どももいます。(どちらも、「なるほど」ではあります。)いずれにしても、あいさつの大切さについては、しっかり話し続けていかなければならないと感じます。そういう意味では、フランス人のあいさつの習慣は大いに参考になりますし、子どもたちもよく認識しているところですので、大いに指導に生かしていきたいと思います。

## 2つの“学校賞(数多くの優秀作品)”を受賞

児童・生徒の作品応募を通して2つの学校賞を受賞しました。一つは、「公益財団法人 海外子女教育振興財団」主催の「第36回海外子女文芸作品コンクール」、今一つは、「独立行政法人 国際協力機構」主催の「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2015」です。